

# 『白門国文』 目次情報

号／発行年月	論文等タイトル	執筆者名	ページ
創刊号／1970(昭和45)年3月 ※タイトル：学部国文			
	バレエと国文学	塚本 康彦	1
	藤原宇合に対する一疑問	畠山 優子	3
	額田王蒲生野歌考	飯塚 信子	7
	防人歌 —赤駒を山野に放し	三浦 せい子	10
	蜻蛉日記に表われた女の本性	小林 英範	14
	萩原朔太郎ノート	中村 佳子	20
	『千羽鶴』における日の展開	遠山 千代子	23
	山の音	平泉 道子	27
	伊藤整	吉田 大之	31
	琉球方言の形容詞	後藤 剛	38
	研究旅行記	小池 愼夫	42
	森本治吉先生に関する挿話	中川 皓司	45
第 2号／1974(昭和49)年3月 近代文学小特集			
	森敦と横光利一	神谷 忠孝	1
	岡本かの子の青春	石屋 恵子	3
	槇村浩一初期作品について	伊藤 真弓	8
	近代の超克	井上 大助	12
第 3号／1975(昭和50)年3月			
	新和歌集の「研究」をめぐって	長崎 健	1
	歌人道済における河原院	矢口 清子	4
	式子内親王の斎院時代について	高尾 明子	8
	泉鏡花の「葉草取」	小西 田鶴子	13
	丸山薫詩私見 —亡師追悼—	杉原 春仁	18
第 4号／1976(昭和51)年3月			
	山本北山の詩論	押野 良吉	1
	武者小路実篤覚え書 —「お目出たき人」の位置	平原 英行	5
	「機械」の周辺	伊藤 康司	9
	山川方夫論 —「煙突」にみる空白からの出発—	高橋 洋子	12
第 5号／1978(昭和53)年3月			
	万葉表記形態論試論 —人麻呂作歌の異伝の表記者をめぐって—	板垣 徹	1
	「若紫」の場面構成 —場の意識をめぐって	中島 敦史	6
	北村透谷 —その青春の構図—	竹内 良男	10

## 『白門国文』 目次情報

号／発行年月	論文等タイトル	執筆者名	ページ
	芥川龍之介論 —龍之介の中に見る中間者像を追って—	斎藤 友宏	15
	高木恭造論 —津軽方言詩集「まるめろ」周辺—	中島 栄	20
	「みたいな」という語の新しい用法について	岩渕 真由美	25
第 6号／1985(昭和60)年3月			
	復刊の辞	安川 定男	1
	『讃岐典侍日記』小見	由井 愛一郎	2
	『新続古今和歌集』小考 —入集作者を中心に—	菊地 明範	6
	『鎌倉太平序』小考 —作中人物「庄七」について—	布施 辰哉	11
	「ニナル」と「トナル」 —時に関する体言に接続する場合を中心に—	小林 恭治	15
第 7号／1988(昭和63)年3月			
	ヒロインとしての紫の上	芹沢 伸江	1
	『和漢朗詠集』の「蟬」について	小野 泰央	6
	福永武彦研究 —愛の不在とふるさと—	細川 七生子	9
	極私的筒井康隆論	直井 昌士	14
	村上春樹世界における“優しさ”	松井 豊	19
第 8号／1990(平成2)年3月			
	児童言語の発達過程の研究	宮本 明子	1
	谷崎潤一郎 —『痴人の愛』試論—	秦 憲	9
	太宰治論『人間失格』にみる太宰治像	佐藤 敦子	18
	『マドンナの真珠』と澁澤龍彦の小説	小林 雅乃	31
第 9号／1991(平成3)年3月			
	千載和歌集 —鹿の歌における一考察	尾坂 隆之	1
	夏目漱石論 —もう一つの「門」を追って	大久保 政男	8
	川端康成論 —聖書から生まれた掌編小説—	甲木 陽子	15
	村上春樹の試み —1970年代からの脱出	小勝 太郎	22
	文字について —広告におけるあて字・感字	大西 朋美	28
第10号／1993(平成5)年3月			
	はしがき	築島 裕	1
	明治開国期の新語 —横浜開港と諸言語の関係—	梅澤 博美	2
	植民地時代台湾における「国語」としての日本語	何 相容	9
	関東平野北部における方言についての研究 —群馬県館林市方言の今昔—	黒木 亮	14
	上田秋成の浮世草子 —『世間妾形気』巻之三第七をめぐって	石山 美穂	21
	「行人」の行方	金清 順子	28

## 『白門国文』 目次情報

号／発行年月	論文等タイトル	執筆者名	ページ
	宮沢賢治論 ―見者、聖賢、そして理想(抄録)―	菊池 信夫	36
	川端康成論 ～いかに幻想と現実の間に作品を漂わせているかの考察	中元 聖史	45
	『眠り姫』における澁澤龍彦の創作物語の特長	樋口 敦弘	51
	文学テキスト論ノート・1 文学作品とは何か	宇佐美 毅	56
	雑本雑感	鈴木 俊幸	62
第11号／1994(平成6)年3月			
	『今昔物語集』の研究 ―〈純友の首〉伝承をめぐって―	小長谷 恭子	1
	『世間妾気質』論 ―巻一の二・三をめぐって―	高桑 由美香	11
	志賀直哉「暗夜行路」研究 ―時任謙作における家・世間・自然―	古城 守	21
	新美南吉論	清水 俊介	31
	太宰治論 ―戯曲「春の枯葉」を中心に―	高橋 智美	42
	安部公房の比喩表現について	重田 邦彦	53
	村上春樹研究	松田 亨	64
	福島の方言の研究 ―郡山市湖南町方言の実態―	佐藤 秀明	i
	文学テキスト論ノート・2 文学テキストの〈空間〉	宇佐美 毅	74
	中央大学図書館所蔵所蔵絵本番附細目	鈴木 俊幸	86
第12号／1995(平成7)年3月			
	『三舛増鱗祖』考	笠原 佳枝	1
	『ころ』論 ―「書」と「話」―	江口 潔	8
	宮沢賢治論 ―『セロ弾きのゴーシュ』における音楽的考察―	田中 里奈	19
	宮沢賢治論 ―賢治作品における〈りんご〉とは何か―	横田 直美	31
	宮沢賢治論 ―四次元芸術―	梁島 秀征	40
	三島由紀夫研究 ―『禁色』における同性愛者像―	小林 幸恵	50
	蒙求国立故宮博物院蔵本の字音注	野口 貴之	61
	「枕草子」の省略から見る女性語	西牟田 希	71
	石川方言の研究 ―鳳至郡柳田村中斎地区の現状―	青木 秀勝	(1)
第13号／1996(平成8)年3月			
	古今集の「侍り」	鈴木 百合子	1
	光源氏と若紫のインダスト・タブーのイメージ ―プレテクスト『伊勢物語』との関りから―	小古間 祐子	15
	一休詩における中国文学受容の様相 ―梅花詩をめぐって―	三野 知之	33
	萩原朔太郎論 ―詩の軌跡を音楽性に求めて―	上村 祥子	46
	横光利一研究「日本回帰」という問題 ―『旅愁』をめぐって―	木村 友彦	61

# 『白門国文』 目次情報

号／発行年月	論文等タイトル	執筆者名	ページ
	雑本翻刻 写本『男女かみゆひの名』	鈴木 俊幸	75
<b>第14号／1997(平成9)年3月</b>			
	説話文学研究 —動物のイメージを追って—	田村 名津美	1
	洒落本における美意識 —遊里の男たちの「いき」—	稲垣 晶子	17
	泉鏡花論 —『化鳥』にみる母性と幻想世界の結晶—	鈴木 俊子	33
	倉橋由美子論	吉田 加奈	47
	定家仮名遣について —「を」と「お」の書き分けについて—	神田 竜浩	66
<b>第15号／1998(平成10)年3月</b>			
	山部赤人と吉野讃歌 —赤人作歌における一つの転機として—	山崎 邦彦	1
	大鏡小考 —物の怪について—	守 朗子	16
	『南総里見八犬伝』における李逵の影	柿崎 敦子	30
	岩野泡鳴の「一元描写論」について —私小説ジャンル成立の契機として—	網代 紀子	41
	中原中也研究 —作品に見られる「死」と「生」—	長本 しのぶ	56
	三浦綾子作品論	佐藤 美保	74
	村上春樹研究	石原 加奈子	87
<b>第16号／1999(平成11)年3月</b>			
	道綱の母、妻としての立場の考察	藤井 隆之	1
	『榎本星布論』	高勢 祥子	16
	『彼岸過迄』論 —青年の成長と、それを見守る男達の物語—	高橋 礼	28
	谷崎潤一郎研究 —『秘密』論—	佐藤 辰宣	44
	宮沢賢治論 —宮沢賢治という先生	榎本 愛子	59
	今年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	77
	秋田方言の研究 —平鹿郡大雄村阿気地区において—	柴田 直樹	(1)
<b>第17号／2000(平成12)年3月</b>			
	助詞「が」と「を」について	中西 結香	1
	古事記における漢語「黄泉」の機能	福岡 史子	17
	藤原定家研究 —『百人一首』成立論と撰集意識—	松尾 由美	31
	『けいせい色三味線』鄙・湊之巻成立の周辺	沢井 みずき	47
	『それから』論 ～回転のイメージ～	浦山 隆史	58
	川端康成『眠れる美女』論 —ネクロフィリアに対する考察を中心に—	小田 優子	74
	太宰治研究 —『正義と微笑』の視点から—	三浦 綾子	87
	吉川英治論 —『三国志』の頃を中心に	小玉 武志	102
	今年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	120

# 『白門国文』 目次情報

号／発行年月	論文等タイトル	執筆者名	ページ
<b>第18号／2001(平成13)年3月</b>			
	古事記における漢語「黄泉」の機能	福岡 史子	1
	万葉集に読まれる鶴の歌について	鈴木 久美	15
	とりかえばや研究 —男装の姫君を中心として—	駒井 綾	33
	花がるた考 —古典的美意識の近世的消化—	丸内 朋子	49
	谷崎潤一郎研究 —『鍵』論—	佐野 祐	68
	中原中也研究	小林 誉子	82
	辻邦夫研究 —時の経過と語りの構造をめぐって	松永 弥生	102
	大江健三郎 森と谷間の村という<場所(トポス)>	森田 純子	118
	意味の変化 —「勝事」から「笑止」の発生とそれぞれ意味変化について—	鈴木 洋平	134
	今年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	170
<b>第19号／2002(平成14)年3月</b>			
	『源氏物語』の文体	徳武 陽子	1
	世阿弥の「敦盛像」の生成について 竹内寛人	竹内 寛人	20
	桃太郎考	川崎 礼子	34
	『修紫田舎源氏』について —その人気の理由—	曾雌 祐子	49
	森茉莉論	鈴木 三穂	67
	三島由紀夫『鏡の家』論	富岡 杏子	81
	灰谷健次郎論	小池 香苗	96
	桑田佳祐の万葉	木下 詳一郎	115
	今年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	129
<b>第20号／2003(平成15)年3月</b>			
	万葉集研究 —大友旅人の報凶問答—	松本 啓子	1
	『源氏物語』—紫上と龍王伝説について—	兼堀 智	20
	『雨月物語』「蛇性の淫」考	武者 衛	31
	芥川龍之介研究 —『トロッコ』に見られる芥川の人生—	嶋田 綾子	44
	坂口安吾「白痴」論	林 由子	57
	江國香織論	安齋 紫乃	73
	『冷静と情熱のあいだ』から感じ取る恋愛法&考察する表現法	滝口 裕崇	95
	<翻刻>『合志郡竹迫手永原口村切支丹宗門就御改影踏被仰付候人数御帳』	齋藤 真希子	113
	今年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	138
<b>第21号／2004(平成16)年3月</b>			
	宇津保物語の人物像 —仲忠の主人公性—	滝沢 有希	1

## 『白門国文』 目次情報

号／発行年月	論文等タイトル	執筆者名	ページ
	和歌からみる俊成卿女像 —本歌取を中心に—	荻野 智子	15
	漫画と草双紙	山城 光生	36
	『たけくらべ』論 —錯綜する信如像—	富塚 昌輝	53
	正岡子規論	高島 萌	67
	今年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	80
	女ことば・男ことばについて —終助詞(文末表現)の考察—	遠藤 郁絵	(1)
第22号／2005(平成17)年3月			
	『いろは短歌』考 —『いろは短歌』から見る江戸人の教育観—	牛ノ浜 奈津子	1
	『当世書生気質』論 —倉瀬の懇願と二人のその後—	堀口 勝裕	13
	石川啄木論 —「うたごころ」で読む短歌	橋本 恵美	27
	デビット・ゾペティ論	井上 奈緒	48
	綿矢りさ論 —「個性」という自己価値—	林 陽子	63
	児童文学における「死」の概念	木下 真希	75
	可能動詞と「ら抜き言葉」の成立 —可能表現としての展開・定着と共に—	大黒屋 千弥	88
	小千谷市小林家蔵和古書目録	近世ゼミナール	115
	今年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	125
第23号／2006(平成18)年3月			
	源氏物語のものものけについて	櫻井 真理子	1
	『十六夜清心』にみる「悪」	大熊 真未	16
	村上春樹論	松井 史絵	29
	『ノルウェイの森』論 ～＜解放＞、そして＜洗練＞へ～	藤崎 央嗣	44
	「日本語における数え方」	岡田 美由紀	68
	今年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	104
第24号／2007(平成19)年3月			
	和泉式部研究	一條 茉莉子	1
	八木重吉論	松本 佑美	17
	高村光太郎論 —『智恵子抄』に隠された愛と真実—	小林 千華	39
	太宰治論 —「女生徒」を中心に—	小澤 知代	54
	今を生きる歌舞伎 —十八代目中村勘三郎論—	谷津 ひろみ	68
	笙野頼子『レストレス・ドリーム』論	宮本 陽介	85
	平成の無頼派 —町田康論	衣川 正造	100
	『室町時代抄物におけるアスペクト表現の研究』	布施 雄一郎	113
第25号／2008(平成20)年3月			

## 『白門国文』 目次情報

号／発行年月	論文等タイトル	執筆者名	ページ
	中世における怪異 —『古今著聞重』に見る天狗—	河又 茉莉	1
	『平家物語』について ～平経正についての一考察～	松井 理紗	17
	『新古今和歌集』入集歌における式子内親王の技法 —『定家十体』をてがかりに—	鈴木 理絵子	29
	おちゃっぴいたちの江戸	寺尾 美緒	47
	現代作家を通して読む昔話 —高橋克彦『眠らない少女』による—	田中 真実	68
	明治期翻訳書『百科全書』「地文學における語彙の計量的研究	東海林 直己	80
	今年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	100
	英訳『源氏物語』の研究 西洋人の解釈と理解を考える ～「夕顔巻」「葵巻」を中心に～	野村 のはら	(1)
第26号／2009(平成21)年3月			
	『竹取物語』論	岡 将隆	1
	『百人一首』について —一定家の撰集意識を探る—	吉川 美里	15
	山東京伝 —『傾城買四十八手』における一考察—	石橋 梓	27
	夏目漱石『それから』論	渡邊 匠	44
	夢野久作「ルミとミミ」論 —兄弟愛の淵源	小金沢 透	61
	町田康『告白』論	永井 輔	74
	宮部みゆき研究 —『ブレイブ・ストーリー』にみる物語のあり方	大島 望	90
	今年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	107
	ベストセラーにおける語彙の計量的研究	渡辺 麻希	(1)
第27号／2010(平成22)年3月			
	『虫愛ずる姫君』考 —毛虫から蝶への成長—	豊田 祥子	1
	梁塵秘抄 —老いの今様を中心に—	龍澤 千絵	16
	異類説話について —『宇治拾遺物語』第五十七話「石橋下蛇事」考—	龍澤 友里	32
	子どもと「学ぶ」こと ～近世について～	東 春奈	47
	鳥山石燕と現代まで生きる妖怪	久保山 航	66
	宮沢賢治論 —音楽活動を中心に—	中川 あゆみ	88
	演じる作家と<テキスト> —芥川龍之介「歯車」論	須貝 俊大	101
	吉行淳之介論	桃井 ゆめか	116
	阿部公房『箱男』論	京極 陽介	131
	「世界名作劇場」における、日本アニメーション化についての考察	瀬島 未帆	144
	今年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	160
	『雲州往来』における行為指定表現の研究	仁科 伸康	(1)
第28号／2011(平成23)年3月			

## 『白門国文』 目次情報

号／発行年月	論文等タイトル	執筆者名	ページ
	『土佐日記』論	萩原 純平	1
	『千載和歌集』の研究—藤原俊成の物語取りを中心に—	藤田 明里	16
	川柳から見た「女房」たち	山口 あゆみ	32
	岡田淳論	西山 倫子	48
	Hydeの歌詞と思想	朴 ヘドゥン	59
	今年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	79
	福島県須賀川市方言について—ピッチ上昇の文法的意味—	石山 理恵	(1)
第29号／2012(平成24)年3月			
	『伊勢物語』第二十一段の再考察 ～物語の流れを中心に～	加藤 悠佑	1
	『徒然草』の研究 ～兼好の女性観～	佐野 冬奈	18
	山頭火のことば	日向野 さと子	34
	立松和平論 ～『遠雷』を中心にして～	今田良介	49
	『冷静と情熱のあいだ』論	越智 真理子	61
	「解釈」の問題に見る阿部和重作品	橋本 龍慶	74
	今年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	86
	談話の副詞「なんか」の研究	浜田 美咲	(1)
第30号／2013(平成25)年3月			
	『信明集』の歌物語的構成	中川 香織	1
	『信実朝臣集』の研究—信実の和歌の傾向—	井上 萌々子	21
	英雄としての頼光—その構築の過程—	紙上 舞百合	39
	表紙屋と製本	常岡 篤子	58
	『猫と庄造と二人のをんな』論—支配の構造とその実態—	小田垣 有輝	86
	福永武彦『草の花』に見る〈愛〉の姿 ～モデルではなくキャラクタの魅力を求めて～	花淵 みのり	97
	よしもとばなな作品における『ハチ公最後の恋人』の独自性とその意義	小林 めぐみ	112
	2012年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	125
	山梨県大月市方言における疑問の文末表現	深沢 貴沙	(1)
第31号／2014(平成26)年3月			
	『源氏物語』の引歌—紫の上と自然	藤尾 綾乃	1
	西行について—能からみる—	齋藤 祐希	20
	近世上方の草紙文化	眞壁 ゆい	46
	樋口一葉『ゆく雲』論—遊学小説としての視点から—	竹下 明	64
	三島由紀夫『金閣寺』論—両親の呪縛と溝口の生を中心として—	福田 創規	81
	綿矢りさ論 ～『蹴りたい背中』から『ひらいて』へ～	佐々木 明里	100

# 『白門国文』 目次情報

号／発行年月	論文等タイトル	執筆者名	ページ
	2013年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	119
	行為的要求文に接続する終助詞「し」のモダリティ	後藤 歴子	(1)
<b>第32号／2015(平成27)年3月</b>			
	『竹取物語』を通して考える『枕草子』の価値観	木下 ゆり	1
	中世文学における異類婚—『かざしの姫君』の独自性—	高橋 怜名	19
	江戸の朝顔—花開く下町文化—	相田 健太郎	40
	金太郎の母としての山姥像の変容	植篠 千晴	61
	樋口一葉『わかれ道』論—「姉弟」と「男女」という選択肢の狭間	宮田 葵	86
	芥川龍之介『藪の中』論 —なぜ真砂は悪女とみられるのか—	青田 美穂	103
	宮沢賢治の自己犠牲論	前橋 啓太	121
	2014年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	137
	「うつくし」「らうたし」「かなし」の意味論的研究	山本 奈穂	(1)
<b>第33号／2016(平成28)年3月</b>			
	中世文学における清少納言像	西田 菜摘	1
	青い目にうつる日本	西井 利衣	24
	牧野信—「鬼涙村」論 —変身装置としての仮面—	伊藤 翼	44
	宮沢賢治「銀河鉄道の夜」論 —「黒帽子復活説」にみた希望	杉永 愛稀	61
	『凍りのくじら』における『ドラえもん』作品中の作品	西脇 裕太	78
	2015年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	93
	現代日本語における隠喩の構造の分析 ～嫉妬のメタファー～	菊地 礼	(1)
<b>第34号／2017(平成29)年3月</b>			
	『万葉集』の行幸について —持統六年の伊勢行幸歌群を中心に—	吉田 有希	1
	竹取物語の和歌について	大竹 将幸	23
	藤原実方について —『古事談』の説話を出発点に—	田崎 七瀬	33
	日本映画論 ～滝田洋二郎「おくりびと」を中心に	洪 錫元	56
	中勘助『銀の匙』論	横尾 圭祐	73
	「吃音」文学論 ～なぜ吃音を描くのか～	徳川 耕平	90
	2016年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	119
	現代語「やばい」に関する意味的研究	上村 遥翔	(1)
<b>第35号／2018(平成30)年3月</b>			
	英語圏における『源氏物語』の受容 ～翻訳論的視点から～	渡邊 憂花	1
	中世説話の研究—説話からみる食と人の関係—	川浪 智佳	24
	刀に映る時代	安島 大貴	49

## 『白門国文』 目次情報

号／発行年月	論文等タイトル	執筆者名	ページ
	「生まれ出づる悩み」論 —有島武朗の芸術観—	鈴木 美沙輝	62
	太宰治「水仙」を読む —パフォーマンスの観点から—	田邊 まみ	81
	坂口安吾論	中曾根 茜	99
	大島弓子「綿の国星」論	児玉 はるか	120
	2017年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	155
	現代日本語における程度副詞の意味分析 —「とても」と「大変」の使い分け—	山寺 麻央	(1)
<b>第36号／2019(平成31)年3月</b>			
	萬葉集東歌における〈物〉と〈心〉の文脈	小野将吾	1
	紫の上の「死」について	矢部みのり	16
	水木しげる研究 —今昔物語集における「鬼」から「死神」への変更が意味すること—	坂口厚汰	36
	『朧月猫の草紙』における表現の特質と販売戦略	寺田真莉菜	66
	中島敦『弟子』論 —子貢の存在と〈狼疾〉の精神—	藤生真惟子	105
	角田光代 —『エコノミカル・パレス』、『空中庭園』を経て『対岸の彼女』へ—	菊地夏帆	124
	伊坂幸太郎 ～叙述トリックによる作品世界の変容～	野中颯太	145
	翻刻『英夫長兵衛一代記』	くずし字勉強会	164
	2018年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	190
	現代短歌における語彙の量的構造研究	宮崎ありさ	(1)
<b>第37号／2020(令和2)年3月</b>			
	古事記における元素「火」について	降旗おおり	1
	崇徳院の研究—『白峯寺縁起』における崇徳院の神格化について—	池田奈々帆	27
	堀河天皇について	岡野屋実幸	53
	江戸時代の「女性教育」と「女性読者」	中村薫	78
	三島由紀夫論 —現実と観念をめぐって—	増永亜夕	96
	山田悠介『スイッチを押すとき』論	野口優香	113
	北条裕子『美しい顔』論	豊島朋佳	130
	近代詩と砂の象形論	茂木彩花	155
	翻刻『英夫長兵衛一代記』(2)	くずし字勉強会	177
	2018年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	191
	現代日本語における「がすぎる」構文の研究	池田奈美	(1)
<b>第38号／2021(令和3)年3月</b>			
	長野まゆみ『銀河の通信所』論 —新たなる「賢治」世界への出発—	阿部菜々香	1
	『真珠夫人』における性格変貌描写の効果 —明治・大正文学の「新しい女」と比較して—	岡村絢音	25

## 『白門国文』 目次情報

号／発行年月	論文等タイトル	執筆者名	ページ
	『銀の匙』の主題をめぐって —「私」の自己形成と破綻—	田井康平	44
	牧野信一 —幻想的私小説における「私」—	家村文響	69
	2020年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	87
	文章の読点と音読のポーズについての研究	松淵由佳子	(1)
	英訳『平家物語』の研究	大野由樹	(45)
第39号／2022(令和4)年3月			
	夢と死者に関する研究	宇崎七海	1
	日本の昔話における援助者 —西洋の童話と現代アニメとの比較を中心として—	三浦千枝	24
	本居宣長と和歌	田本天那	42
	横光利一「機械」論 —〈機械〉が表象するもの—	鷹巢宝乃	62
	『君たちはどう生きるか』の受容研究 —「英雄」観の変遷を中心に—	田中里奈	82
	川端康成『女であること』論	内藤夕衣	102
	テレビドラマ『カルテット』論	松山みずほ	127
	2021年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	145
	談話におけるフィラーの研究	川島優佳	(1)
第40号／2023(令和5)年3月			
	『源氏物語』の色彩とその変遷 —「絵合」の右の童の相を中心に—	佐藤有咲	1
	軍記物語における「形見」の描かれ方	滝沢咲紀	26
	心中の甘美な魅惑 —近松門左衛門『曾根崎心中』より—	山田帆花	48
	三文書屋一枚刷目録(一)	鈴木ゼミ	67
	ウルトラQが描いた社会問題	水田周吾	80
	中原中也の詩論と詩の特徴 —「一つのメルヘン」「蛙声」を中心に—	大須賀茜	98
	高橋留美子『めぞん一刻』論	小此木良太	120
	諫山創『進撃の巨人』論	美浦礼太郎	140
	2022年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	158
	「お疲れ様です」の用法の変化	大花めぐみ	(1)
第41号／2024(令和6)年3月			
	『万葉集』における「神」—第三期・第四期におけるイメージの定着—	森永 日菜	1
	『竹取物語』の描写に関する歴史的変遷について —絵本「かぐやひめ」に着目して—	近藤 あい	21
	注釈史から見る「一代記」としての『伊勢物語』	栗山 美希	41
	『平家物語』の表現研究—覚一本における託宣歌の物語的利用について—	須崎 泰地	61
	一枚摺「古今廓奇談」からみる江戸後期の出版文化	平塚 萌	85

## 『白門国文』 目次情報

号／発行年月	論文等タイトル	執筆者名	ページ
	三文書屋一枚刷目録(二)	鈴木ゼミ	105
	江戸川乱歩『赤い部屋』論	奥田 美海	113
	映画版『コクリコ坂』にみるジェンダー —再構築された時代と空間と人物に着目して—	岩城 悠香	129
	『和名類聚抄』の語彙構成: 飲食部の食品語彙と古記録	乙部 桃子	(1)
第42号／2025(令和7)年3月			
	『万葉集』における人麻呂の共寝表現	坂本 桃香	1
	『古今著聞集』巻第一神祇・二十四話の研究	上原 歩花	17
	鳥を愛でる江戸時代の人々	佐藤 涼葉	35
	三文書屋一枚摺目録(三)	鈴木ゼミ	50
	竹久夢二の表現研究論	遠藤 恵怜奈	59
	「甘え」理論による『春琴抄』分析	竹原 綾音	75
	『S・カルマ氏の犯罪』論	西田 陸朗	93
	住野よる『君の隣臓をたべたい』論	桑田 笑歩	115
	二〇二四年度の卒業論文を読んで	宇佐美 毅	130
	イ形容詞活用語尾脱落型に関する記述的研究 —出現条件と階層性—	北林 美輝人	(1)
第43号／2026(令和8)年3月			
	『枕草子』日記的章段における時間軸の再検討 —「御仏名のまたの日」の史実考証と異文をめぐって—	飯島 里代子	1
	『平家物語』における「御曹司」「冠者」の使い分けについて	安岡 勇哉	19
	『あしびき』の研究	阿部 千里	38
	江戸時代の三味線とその産業	春日 香音	56
	三文書屋一枚摺目録(四)	鈴木ゼミ	77
	野上弥生子『明暗』論—未熟な主人公—	和佐 まりあ	82
	『クレヨンしんちゃん』論—理想像の受容	田中 賢征	100
	宮藤官九郎と震災—「あまちゃん」を契機に考える—	武藤 凜	118
	ヤマモトショウの歌詞世界における「かわいい」と「自己肯定感」	牧野 小夏	136
	二〇二五年度の卒業論文を読んで 宇佐美 毅	宇佐美 毅	154
	『今昔物語集』におけるオソル・オヅ・オソロシの漢字表記	中本 燈	(1)